

CITY OF YOKOHAMA

**全国初！
公共建築物の廃棄窓ガラスの
水平リサイクル実証実験を開始します**

2025年11月21日
市長定例記者会見



横浜市

建設業におけるリサイクルに関する課題

- ・ 建設業から出る産業廃棄物(コンクリートや木材など)のリサイクル率は約97%
- ・ 一方で、そのほとんどがダウンサイクルされている
- ・ 循環型社会への移行には、捨てられる材料が再び同じ製品として生まれ変わり、新たな材料を使う必要がない水平リサイクルが重要

建築物における廃棄窓ガラスの現状

廃棄窓ガラス

【50万ト/年】

埋立処分

【37万ト/年】



ガラスや陶器等の混合廃棄物

ダウンサイクル

【8万ト/年】

(別の用途の製品にリサイクル)



グラスウール(断熱材)



道路の舗装材(路盤材)

▶ 水平リサイクルの可能性

廃棄窓ガラスの水平リサイクルの意義

- ・ ガラスの原料となる**天然資源の使用量の削減**
- ・ **産業廃棄物の埋立処分量の削減**
- ・ **製造時のCO₂排出量の削減**

(例) 1トンの廃棄窓ガラスを水平リサイクルした場合の効果

1トンの廃棄窓ガラス
水平リサイクル



1.0ト

効果

天然資源の採掘



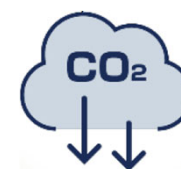
▲1.2ト

埋立処分



▲1.0ト

CO₂排出量

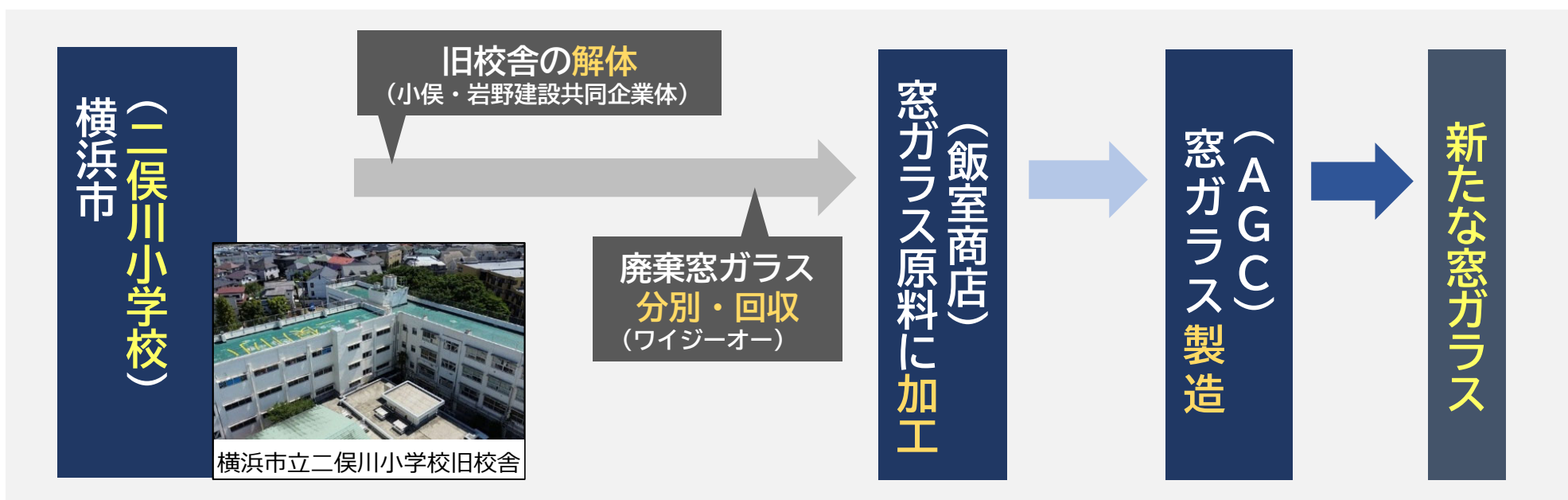


▲600kg

公共建築物の廃棄窓ガラスの水平リサイクル実証実験



- ・ **全国で初めて、公共建築物の解体工事で発生した廃棄窓ガラスを水平リサイクルする実証実験を開始**



公共建築物の廃棄窓ガラスの水平リサイクル実証実験

実証実験の概要

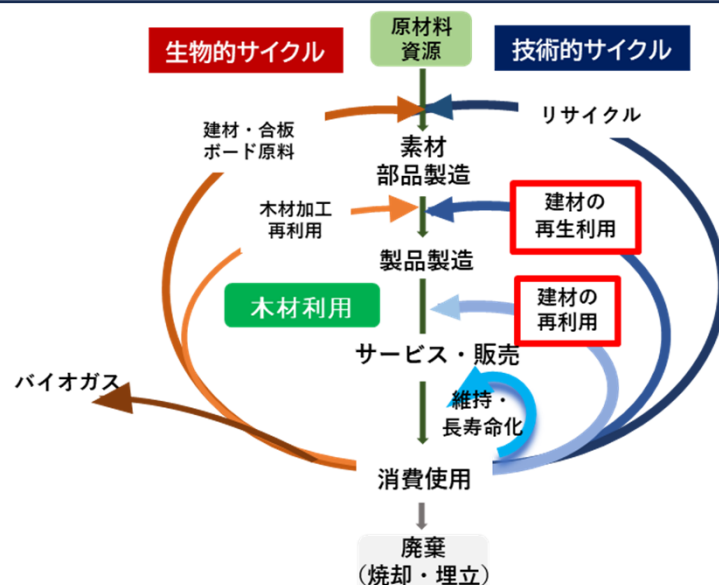
窓ガラスの搬出、原料化、製造

令和7年12月～令和8年1月

コストや作業手順、ガラス原料の数量等を検証

～令和8年3月

官民一体で廃棄窓ガラスの
資源循環のシステム構築を目指します



建築・住宅分野におけるサーキュラー施策概念図

ゲストプロフィール



A G C株式会社 執行役員
建築ガラス アジアカンパニー プレジデント

よ し ば し げ き
吉 羽 重 樹 様

AGC 窓ガラス水平リサイクルの取組み意義

窓ガラス水平リサイクルの推進

窓ガラスは、溶かして作り直すことで、
半永久的に水平リサイクルが可能な素材である。
一方、現在**廃棄窓ガラスは、『ガラス陶磁器屑』として埋立処分、若しくはカスケードリサイクルに回っている。**



ガラス陶磁器屑としての窓ガラス産廃例

【板硝子協会としてのリサイクル目標】

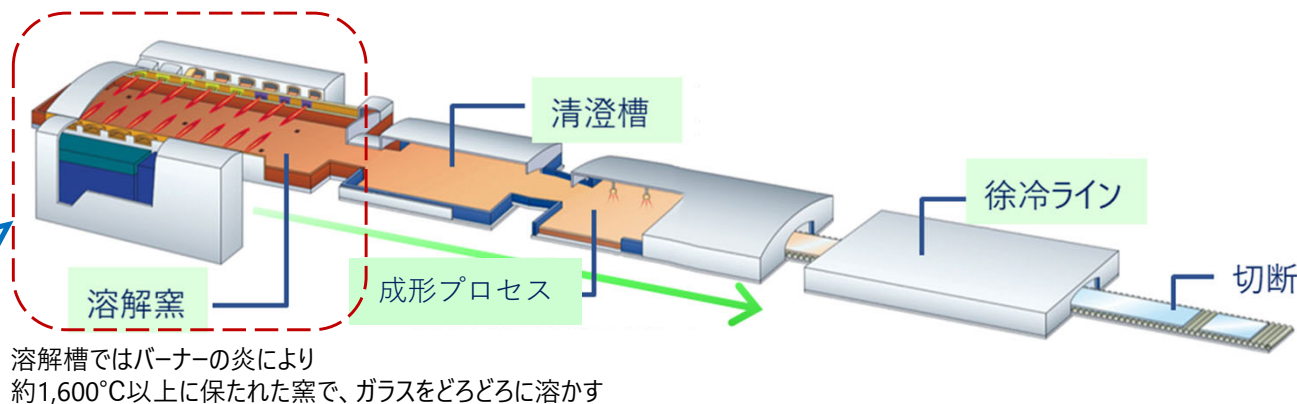
使用済み窓ガラス製品由来のカレットを
2030年度末までに11万トンリサイクル

製造プロセスにおけるCO₂削減



窓ガラス水平リサイクルによるCO₂削減
・化石燃料の使用量削減
・炭酸塩原料(ソーダ灰等)の使用量削減

【板ガラス製造ライン】

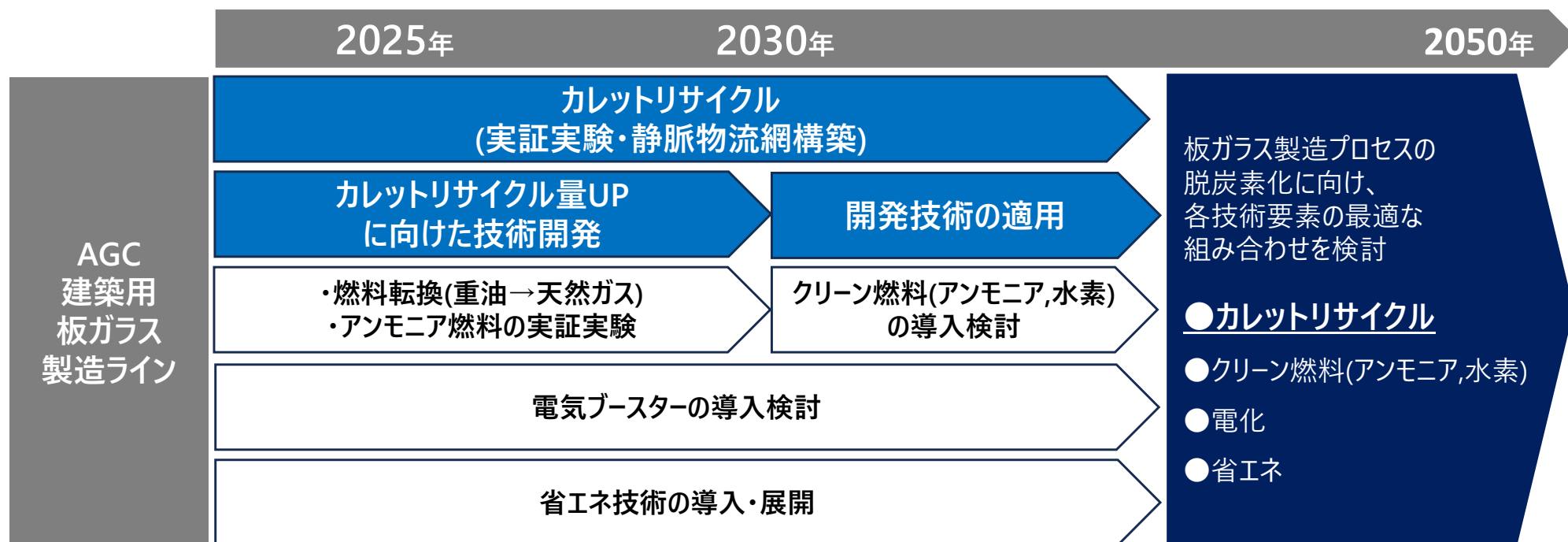


溶解槽ではバーナーの炎により
約1,600℃以上に保たれた窯で、ガラスをどろどろに溶かす

窓ガラスは水平リサイクルに適した**素材**であるが、**年間50万トン以上の廃棄窓ガラスが有効活用されていないため、板ガラスメーカーとしてこの状況を改善し、板ガラスの資源循環・GHG削減を進める。**

AGC 窓ガラス水平リサイクルの取組み意義

AGC 板ガラス製造におけるCO₂削減技術ロードマップ



窓ガラスの水平リサイクルは、**板ガラス製造プロセスにおけるCO₂削減**に向けた重要な活動である。

CO₂削減策の一環として、**横浜市内で発生する公共施設の廃棄窓ガラスを、**

AGC横浜テクニカルセンター(横浜市鶴見区)の板ガラス製造ラインで水平リサイクルする実証実験を進める。

公共建築分野での今後の展開

- ・ 水平リサイクルや建材再利用などにより「廃棄物を出さない」
- ・ 建物を長く「使い続ける」
- ・ 木材などの「バイオ資材の活用」

日本一のストックを持つよこはまの公共建築物から
「サーキュラー建築の推進」
「循環型社会への移行」
を目指す